

入曽地区中学校統廃合検討協議会第2回会議録

- ・開催日時 平成23年5月25日(水) 午後6時30分～9時00分
- ・開催場所 入曽公民館3階第二学習室
- ・出席者 19名(欠席者1名)
- ・事務局 生涯学習部長 次長兼教育総務課長 学校統廃合担当課長
学校統廃合担当主任
学校教育部参事兼教育指導課長
- ・傍聴者 4名

【会議内容】

1 開 会

2 委員の委嘱

3 会長あいさつ

4 副会長の指名及び副会長あいさつ

元木良成委員が副会長に指名される。

5 議 事

(1) 入曽地区の中学校の統廃合について

(議長) まずは前回の会議で出た意見や質問について、事務局からお答え願います。

(事務局) 1点目は、一つの学校を建て替えて、他の学校の敷地を校庭として活用する件です。

学校とグラウンドが離れている学校について、まずは文部科学省に問い合わせをしましたが、そのような情報までは押さえていないとのことでした。

埼玉県教育委員会に確認したところでは、県内の公立中学校の中で、校舎とグラウンドが道路等で分断されている学校はあると思われるが、

行き帰りの時間が必要なほど離れている学校はないであろうとのことでした。

都内で調べたところでは、校舎からグラウンドまで徒歩で3分程度かかる私立の中学校が目黒区にありました。この学校は、以前に校舎を増築する際に、校舎の隣接地を購入できなかったため、やむを得ず当時使っていた校庭の敷地に増築したとのことでした。そして、新たに土地を購入し、そこにグラウンドを造ったとのことでした。やはり、校舎とグラウンドとの間の行き帰りの交通事故等の安全性に課題があるとのことでした。途中で大きな道路を横断するような条件では無理ではないかとのこと指摘もいただきました。

また、都立の中学校では、校舎からグラウンドまで徒歩で5分程度かかる学校が上野にありました。現実的には、授業の合間の10分間の休憩時間のなかで移動しなければならないので、なかなか難しい面があるとのことでした。また、急な天候の変化が生じた際の対応に苦慮するとのこともお話もいただきました。

建て替えにつきましては、現在、隣の入間市にある武蔵中学校で改築工事が計画されており、校舎はRC造の3階建てで22～23億円、体育館は2～3億円、プールは約1億円が見込まれています。やはり、建て替えに関しては多大な費用がかかるということです。

結論としては、学校を建て替えて、グラウンドを別の場所に確保するというのは難しいのかなと市としては考えています。

2点目は新学習指導要領に関わる選択教科の取扱いの件です。前回の会議で、選択教科はなくなったとのこと指摘がありましたが、正確に言えば、指導要領からなくなったというわけではありません。ただし、新しい学習指導要領の規定のなかで選択教科を続けるためには、相当の工夫が必要になるため、現実的には難しいと思われま

(議長) 続けて資料の説明をお願いします。

(事務局) ——— 配付資料説明 ———

(委員) はっきり言って、この資料でベラベラ説明されても皆わからないと思うので、もっとシンプルに問題点が何かということを確認にすべきだと思います。

基本方針で述べられている「必要性」という言葉では分かりづらいので、それを「問題点」という言葉に置き換えてみますと、生徒数の

減少による問題点ということで、小規模校化によって、集団教育が阻害される、教科学習や指導が不十分になる、学校行事や部活動が充実しない、学校施設が充実しない、地域社会との連携がうまく回れないということになると思います。市の財政難に関して言えば、校舎等の老朽化による改築及び全面改修が困難になるということだと思います。そして、本当にこういう問題につながっていくのかということの一つずつ検討していく必要があると思います。問題があるのであれば、それらの解決策を考える必要があり、教育委員会は解決策を統廃合と考えたわけですが、解決策は本当にそれだけなのか、他に方法はないのかということも議論していくべきだと思います。

今までの議論を聴いていると、あっちに行ったりこっちに行ったりしてよく分かりません。個別に一つずつ判断していったうえで全体を判断するといった形が通常の問題解決のプロセスだと思いますので、そういった方向で議論を進めていってもらいたいと思います。

はっきり言って、教育委員会の用意する資料は統廃合を誘導するような内容ですし、方針が覆ることがないのであれば、統廃合するという結論が出るのは分かりきっているわけですし、そのあたり、我々委員はどのように考えていったらいいのか、根本問題としてよく分からないわけですよ。

(事務局) 教育委員会としては、まずは統廃合の必要性について、委員の皆様を確認していただきたいと考えています。

(議長) この会が、適正化検討委員会などといった名称であれば、あくまでも統廃合は適正化を実現するための一つ手段というふうに考えられますが、統廃合検討協議会となると、統廃合ありきといった感も受けません。しかし、あくまでも統廃合をする必要性があるのかといったところから議論するということですね。

(事務局) そうです。

(委員) 前回の会議で、基本方針は議会の承認を得ているという話がありましたが、それは市の方針として決めたということですよ。それをこのメンバーでひっくり返すなんてことはできるのですか。

(事務局) それは議会に説明にあがって了解を得たということであって、議会

の議決を得たということではありません。

(事務局) ただ、市議会の議決は得ておりませんが、基本方針は教育委員会会議の正式な議決を得て策定されたものです。

(委員) それでも教育委員会で決まったものに対して、この場でノーを突きつけるなんて、実際あり得るものなのですか。

(事務局) 基本方針には「関係者の理解と合意のもとに進める必要があります」と明記されており、そういった内容も含めて議決しているということです。ただ、教育委員会としての意思は明確です。

この基本方針を変えるには、再度教育委員会議に付して、変更の議決を行う必要があるということです。

(議長) 統廃合するというある程度の方向性は出ているわけですから、「関係者の理解と合意のもとに」とあるのは、そういった基本方針を関係者に理解してもらいながら進めていきなさいということだと、私自身は解釈しています。

(事務局) これから検討していくうえでの方法論としては、いろいろな形があってよろしいかと思えます。

(委員) 先ほど話が出たように、一つずつ問題点を検討していくといった進め方でよろしいのでしょうか。

(議長) それでは、ここに挙げられた五つの問題点に関して、意見等を出していただければと思います。

(委員) 部活動に関して言えば、私が30年前に中学生だった頃に比べると、今の状況はあまりにも選択肢が少ないと思います。入間野中はサッカー一部がなかったりしますし、部活動が充実しないという面は確かにあると思います。

(議長) 小規模校化すると地域社会との連携がうまく図れないというのは、具体的にはどういうことでしょうか。

(事務局) 教員の定数に関して申しますと、9クラスの場合は校長先生を含めて基本的には17人です。新しい学習指導要領で授業数が増える状況では、英語・国語・数学・理科・社会だけでも、各教科で最低2～3人程度の教員は必要ですので、17人では大変な面があるかと思われれます。授業以外にも諸々の校務がありますので、そういった余裕の無いなかで地域社会と連携をとっていくというのは、かなり難しいのではないかと思います。

さらに8クラスでは教員数は基本的に15人ですので、例えば技術科の免許を持った教員がいないなどといったことが起きることになります。

(委員) 18クラスの場合、教員数は何人になりますか。

(事務局) 基本的には29人です。

(委員) はっきり言って、生徒数の減少による問題点などというのは枝葉の問題であって、それは先生方の工夫次第で解決できる問題だと思います。要は、財政的なことが一番の問題であって、これだけ生徒の数が減っているのに、学校の数はそのまま大丈夫なのかということに尽きると思います。

(議長) 学校の現場の立場からは何かありますか。

(委員) 日々たくさんの方の教育課題にエネルギーを注いでいるので、普段は学校の規模云々について考えることはありません。

(委員) 私は以前に中学校の教師をしており、規模の大きな学校も小さな学校も経験しましたが、一学年3学級以下の中学校よりも、やはり一学年4～6学級ある中学校の方が、教育環境の充実は図りやすいと思います。ですから、教育委員会が提示した考えは、私はとても理解できます。小さい学校が悪いということではなくて、ある程度規模のある学校の方がより良いということです。

(議長) 学校の仕事の総量は、どこも大体同じですから、教職員の数が少なくなれば、一人で抱える量は多くなります。それによって、子供に接する時間も少なくなるということも指摘されています。

(事務局) 財政的な観点から話をさせていただきますと、四百数十億円の一般会計予算のうち、教育費は五十億円くらいです。歳入の額はあまり変わらないなかで、福祉の予算が毎年増えているため、教育費などの他の予算が徐々に減らされているといった傾向にあります。今後は働く層の割合が減って高齢者が増えますので、市の収入が増えるかといえ、その見通しは暗いです。学校予算につきましても、25校で割るのか何校で割るのかといったところで現実的には変わってきます。現在の財政状況が汲々としているというわけではありませんが、ここ十数年で市の職員も200人程度減らしております。今後も何もせずに現状のまましていると、いろいろな方面で経費がかけられなくなり、つまるところサービスの低下につながるのではないかとといったことは危惧しております。今お金がないということではありませんが、長い目で見ればそういったことが起こり得るであろうと考えています。

(議長) 学校が少なくなれば、電気代などのランニングコストを削減することができますし、予算を効率的に使うことが可能になりますね。教育委員会の立場としては、お金のことは言いづらいと思うのですが、そういったことは市民の立場からも大事な視点だと思います。

(委員) 去年までの3年間、小学校のスクールガードリーダーをやっていて、統合した狭山台小学校を1年間見てきましたが、違う学校が一緒になると波があって落ち着かないといった印象を受けました。最初だけだとは思いますが、統合した場合、そういったことはあるのかなと思いました。

入間中も山王中も入間野中も、地元でずっと応援してきた学校ですし、先生も一生懸命やっていますし、今くらいの規模のままでいいと思いますよ。

(委員) 適正規模にすることに関して、間違いなくメリットがあると思うのは、やはりコストパフォーマンスですね。

教員数がある程度揃っていた方が人事面で融通がききますが、現場で働いている立場からすれば、小規模によるメリットを感じることも確かにありますので、本当に一概には言えないと思います。

(委員) 私は教頭の立場で、当時の上福岡市の小学校で10年ほど前に統廃

合を経験しました。その時は保護者の間でもいろいろと意見は分かれ
ました。私のいた学校がなくなる方の学校でしたので、自身の当時の
気持ちとしては正直おもしろくなかったです。ただ、統合に際しては、
新しい学校をつくるというコンセプトで合意を得た経緯があり、基礎
学力の向上とともに英語やコンピュータもできるようになってもらい
たいという保護者の願いをコンセプトの一つとして掲げ、今も統合し
た学校ではそれを継続しています。10年前の話ですが、今回の新学
習指導要領では外国語教育が入っていますし、今振り返ると正しい選
択だったのかなと…。指導要領が変わったという点では、教育委員会
の基本方針も、策定した平成19年当時で見れば、その内容は正しい
と思いますが、カリキュラムの記述の部分については、現時点では若
干変わってきているのかなと思われま

現場では、これから「ゆとり教育」からの転換を図るうえで何をす
べきかを考えていく必要があります。そういうなかで、小学校のある
教科書ではページ数が4割増えています。しかし、時間は1割しか増
えていません。そうすると途中でパンクするのは目に見えてますので、
詰め込み教育の再燃などといった記事が今後新聞で取り上げられるこ
とになるかもしれません。来年は中学校にもその波が来ますから、そ
うした状況に対応するためには、新しい学校をつくるというくらいの
意識改革が必要なのではないかと感じています。

(議長) 学校の先生は、現状でもなかなかお休みが取れません。来年から全
面実施される中学校の新学習指導要領によって授業時数も増えますか
ら、ある程度の人数の教員が配置されている方が良いのかなとは思っ
ています。

(委員) 法律で学級数によって教員の人数は決まっているとのことですが、
英語の先生は何人とか、数学の先生が何人とか、そういうところまで
決められているのですか、それともそれは学校から要請できるのです
か。

(事務局) それは学校から要請できます。ただ、各学校で英語は何人、数学は
何人と割り振っていった時に、どうしても8学級以下の学校では、例
えば技術科の先生が足りないために県から非常勤講師を派遣してもら
わないと成り立たないといったことが起こるわけです。その非常勤講
師につきましても、仕事として成り立つのかといった側面もあって、

県にお願いしても、なり手がいないので派遣できないといったことも今後あり得るということです。このような問題は、実際に市内でも近隣市でも起きています。そういった点から、小規模校によって生じる不都合を解消する方法は簡単には見つからないとあってよろしいかと思えます。

私自身、小規模の中学校を経験しましたが、保護者から、この部活動をつくってください、専門の教師を置いてくださいと言われても、どうすることもできませんでした。いずれにしろ、8学級や9学級の学校のままでは、子どもたちにとって十分な教育環境を与えているということにはならないのではないかと考えています。

(委員) ある程度の人数がいた方が楽なことは確かだと思います。ただ、基本的に、この資料だって統廃合に向かって誘導するように作られているわけで、少ない方がいいなんて書いていないわけですよ。小規模だって十分やれているという話もあるし、我々素人では正直結論は出しづらいですよ。ということになると、市が財政的に困難だから勘弁してくれということであれば、それに向かっていくしかないですよ。

ただ、部活がどうのというのは親の問題ですよ。子どもは選択できるはずですよ。サッカーがなかったらサッカーのある学校に行けるわけですよ。

(事務局) ただ、教員の異動に伴って教える人がいなくなれば、その子が入学してから3年間指導体制が整わない可能性もあります。

(委員) それは学校の問題であって、先生がいなくなったからサッカー部をなくすなんていうのは無責任ですよ。

(事務局) しかし、現実的に人が少ないということは、そうなる可能性を含むということです。

(議長) 先ほど、サッカーのある学校に行けばいいという発言がありました。が、現実には、ほとんどの子は我慢しながらも地元の学校に通います。子どもの立場から考えれば、そんな簡単なことではないと思います。

それでは、ここまで小規模校化に伴う問題点をいくつか検証してきましたが、統廃合するかしないかの結論については、次回あたりで出しますか。

(委員) いつ頃までに、こういうふうな結論を出そうよといった工程表みたいなものがないと、いつまでも何となく言いたいことを言っちゃうようなところがあって、どうなのかなとは思っていますが…。

(議長) そういうものは特にないということだと思いましたが…。

(委員) 今日は学校内における教育環境が主な議論の中身だったと思うのですが、本来、教育環境というのは、子どもたちの住環境、生活環境のすべてを含めたものだと思います。ですから、統廃合する場合には、例えば登下校時における環境も考慮する必要があると思います。また、通学距離が遠くなることによって、自転車通学も想定される中では、歩道の整備なども必要であり、そういった面では、まちづくりの視点もひっくるめて考えていく必要があると思っています。それと、生徒数・学級数の推計表を見ると、平成29年まで、それほど推移しないようですので、そういうことも踏まえながら検討していく必要があると考えています。

子どもたちの教育環境というのは、学校の施設だけではなく、まち全体の問題として考えていけたらなと思っています。

(委員) 私は学校の適正規模はどのくらいなのかという結論は、もう出ていると思っています。一学年4～6学級というのが間違いないところだと思います。ただ、だからといって統廃合が必要かという、またそれも違うのかなと思います。子どもたちの通学距離が長くなるということもありますし、まちづくりと並行して考えなければいけないと思う部分もあります。

(議長) 確かに、いろいろな課題を認識したうえで決定していく必要があると考えています。

(委員) 教師の数が少ないと教師自体は厳しいですよ。土日なんて全然ないですし、部活をもっていれば、朝は6時くらいには家を出て、帰ってくるのは夜遅くです。朝練や土日の練習・対外試合にも全部つきあいますから、自分の時間なんてないです。やっぱり教員の数はある程度はいないと、なんだかんだ言たって現場は成り立たないと思いますよ。そういうことを政策的にやれる可能性があるのであれば、社会と

して認めて進めていかなければいけないと思います。ずっと無理してばかりでは続けていけないと思いますよ。

(議 長) 3校を2校にした場合、生徒数や学級数がどうなるかなどといったデータがあれば、今後検討していくうえでの参考になると思うのですが…。

(事務局) 次回からは、そういったシミュレーション的なものも用意させていただき、具体的な検討をしていただけたらなと考えております。

(委 員) それでは統廃合前提ですよ。私たち委員は統廃合するとかしないとかは未だ決めてないわけで、シミュレーション云々は時期尚早ではないでしょうか。小規模校では問題があるということであれば、統廃合もしくはそれ以外の方法はないのかということから、まずは議論を進めていくべきだと思います。なんとなく統廃合の方に行っちゃうのは、おかしいですよ。

(事務局) それであれば、まずは統廃合の必要性を検討していくうえで、こういった資料がほしいといった要望を皆様からお聞かせ願いますでしょうか。

(議 長) 私としては、そういった生徒数が増えた場合のメリットデメリットみたいなものがあれば、委員の方も判断しやすいのかなと思って言ったつもりなのですが、如何なものでしょうか。できれば予算的な観点も含めて…。

(委 員) 私もシミュレーション的な資料はほしいです。別に入間中、山王中、入間野中などといった具体的な名前は出さないにしても、3校を2校にした場合、どういう規模になって、教員数は何人になるのかといったことは知りたいです。この学校狙われているといった印象を与えないようなシミュレーション資料を作っていただけたらなと思います。

(事務局) 予算的なものまでシミュレーションするのは、なかなか難しい面があるとは思っているのですが…。

(議 長) できる範囲で結構なのですが、ランニングコストなんかは出せるの

かなんて思いまして…。そういったことも重要なことですから…。

それでは次回はそういった資料を基に検討を進めていきたいと考えています。

(2) その他

次回会議日程は7月中旬を予定

6 閉 会

【配付資料】

- ◆ 入曽地区中学校統廃合検討協議会委員名簿
- ◆ 中学校の規模と配置の適正化の必要性
- ◆ 学校規模による効果及び課題点
- ◆ 入曽地区の中学校を統廃合した場合の効果及び課題点
- ◆ 児童生徒数・学級数推計表（学務課資料）